

|  |                     |  |                       |
|--|---------------------|--|-----------------------|
| 卒業必修   | 保育士必修               | 幼稚園教諭必修  | 選択                    |
| 授業科目名：<br>レクリエーション概論<br>ナンバリング：1019  | 保育士資格取得のための<br>選択科目 | 単位数：2単位<br>(半期) 講義   | 担当教員名：金美珍<br>担当形態： 単独 |
| 系 列  | 教養科目                |  |                       |
| 教科目  | 外国語、体育以外の科目         |  |                       |
| <b>授業の到達目標及びテーマ</b><br>1. 対人支援の場におけるレクリエーションの意義や活用法について理解できる。<br>2. レクリエーション・インストラクターの役割について説明できる。<br>3. レクリエーション・インストラクターとしての具体的な支援技術を習得することができる。   |                     |  |                       |
| <b>授業の概要</b><br>レクリエーションとは何か、レクリエーションの歴史・意義、レクリエーション・インストラクターの役割の理解など、レクリエーション・インストラクターとして必要な知識・技術を身につける。特に実際に対象・目的に合わせたレクリエーション計画の作成、レクリエーションプログラムの作成方法を身につける。  |                     |  |                       |
| <b>授業計画</b><br>第1回：レクリエーションについて<br>第2回：レクリエーション支援とは<br>第3回：レクリエーションの理解と歴史<br>第4回：楽しさを通した心の元気づくり<br>第5回：ライフステージと心の元気づくり<br>第6回：レクリエーション支援におけるコミュニケーション<br>第7回：対象者との信頼関係<br>第8回：集団づくりの理解<br>第9回：集団の成長を通した支援者の関わり<br>第10回：国際交流とレクリエーション<br>第11回：レクリエーションプログラムの作成①<br>第12回：レクリエーションプログラムの作成②<br>第13回：レクリエーションプログラムの作成③<br>第14回：リスクマネジメント<br>第15回：レクリエーションをめぐる課題<br>定期試験：筆記 |                     | <b>授業時間外の学習</b><br>・授業時に配布した資料を参考に振り返りを行う。(1時間)<br>・学習した内容が各自の日常生活にどのように位置づいているかを調べる。(1時間)<br>・レクリエーションは、特別な理解や技術ではなく、日常生活を豊かに過ごすための考え方であり、対象者に寄り添うための支援技術であることを普段の生活において意識し、参考になる資料を集める。(1時間) |                       |
| <b>授業の方法</b> 講義と演習、実技、グループ作業。ICT活用の授業も行なう。プログラム作成と実践に対しコメントをしてフィードバックする。   |                     |  |                       |
| <b>テキスト</b> 『楽しさをとおした心の元気づくり』 日本レクリエーション協会   |                     |  |                       |
| <b>参考書・参考資料等</b> 適宜授業内で紹介する。   |                     |  |                       |
| <b>学生に対する評価</b><br>定期試験 (30%)、授業参画度 (40%)、レクリエーションプログラムの作成・実践 (30%)。ルーブリックを活用し、総合的に評価する。   |                     |  |                       |
| <b>履修上の注意</b><br>「レクリエーション・インストラクター」資格を取得希望の学生は、資格取得の必修授業なので必ず受講すること。但し、レクリエーション・インストラクター資格の取得を希望しない学生でも受講できる。授業内容により体育館で行うことがある。また、羽生市内ほか県内のレクリエーション大会講習会を見学する事もある。積極的な態度で授業に取り組むこと。  |                     |  |                       |
| 実務経験の有無  | 無                   | 実務経験   |                       |
| <b>実務経験を活かした教育内容</b>   |                     |  |                       |

| 卒業必修  | 保育士必修               | 幼稚園教諭必修  | 選択   |
|---|---------------------|--|--|
| 授業科目名：<br>子ども家庭福祉<br>ナンバリング：2102  | 保育士資格取得のための<br>必修科目 | 単位数：2単位<br>(半期) 講義   | 担当教員名：山田耕平<br>担当形態：単独                      |
| 系 列   | 保育の本質・目的に関する科目      |  |  |
| 教科目   | 子ども家庭福祉             |  |  |
| <b>授業の到達目標及びテーマ</b><br>1. 子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解できる。<br>2. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解できる。<br>3. 子ども家庭福祉の現状と課題、動向と展望について理解できる。   |                     |  |  |
| <b>授業の概要</b><br>子ども家庭福祉の意義、歴史の変遷、制度、現状、動向等について自ら課題意識を持って学び、アクティブ・ラーニングにより、専門職としての知識を定着させる。  |                     |  |  |
| <b>授業計画</b><br>第1回：子ども家庭福祉の理念と概念<br>第2回：子ども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向<br>第3回：子どもの人権擁護<br>第4回：子ども家庭福祉の制度と実施体制<br>第5回：子ども家庭福祉の施設と専門職<br>第6回：少子化と地域子育て支援<br>第7回：母子保健と子どもの健全育成<br>第8回：多様な保育ニーズへの対応<br>第9回：子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止<br>第10回：貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応<br>第11回：社会的養護<br>第12回：障害のある子どもへの対応<br>第13回：少年非行等への対応<br>第14回：次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進<br>第15回：地域における連携・協働とネットワーク<br>定期試験：筆記 |                     | <b>授業時間外の学習</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の講義を必ず復習し、学びや気づきを整理すること。(毎回1時間程度)</li> <li>授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れるので、自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。</li> </ul> |  |
| <b>授業の方法</b> 講義、ディスカッション。提出された課題には、コメント等を入れて返却する。   |                     |  |  |
| <b>テキスト</b><br>『新基本保育シリーズ 子ども家庭福祉』公益財団法人児童育成協会監修 中央法規出版   |                     |  |  |
| <b>参考書・参考資料等</b> 授業において適宜プリント資料を配布する。   |                     |  |  |
| <b>学生に対する評価</b><br>授業参画度 (30%)、課題 (30%)、定期試験 (40%)。<br>ルーブリックを活用し、総合的に評価する。   |                     |  |  |
| <b>履修上の注意</b><br>受講にあたっては、テキストや参考文献等を用いて事前事後の学習を行うこと。   |                     |  |  |
| 実務経験の有無   | 有                   | 実務経験   | 臨床心理士・公認心理師<br>生活困窮者支援・学生相談・教育相談・幼稚園巡回相談 等 |
| <b>実務経験を活かした教育内容</b><br>切り口の異なる多様な現場での実践経験を活かし、具体的な事例をもとに授業を行う。   |                     |  |  |